

査読者一覧 (五十音順, 敬称略)

池内和代	石上悦子	市原多香子	伊東美佐江
岩本真紀	大森美津子	岡久玲子	岡山加奈
掛田崇寛	片山陽子	川田紀美子	木宮高代
木村美智子	金正貴美	國方弘子	小林秋恵
佐々木睦子	塩田敦子	清水裕子	祖父江育子
田中美延里	谷本公重	辻京子	辻よしみ
筒井邦彦	峠哲男	當目雅代	徳永喜与子
中尾優子	名越民江	名越恵美	難波峰子
西村亜希子	野口純子	芳我ちより	平井啓
藤井智恵子	藤井豊	舟越和代	古川文子
前川泰子	松井妙子	松本啓子	三浦浩美
實金栄	南妙子	森木ゆう子	森永裕美子
山居輝美	山村江美子	山本美輪	吉本知恵

以上, 52名の先生方に感謝申し上げます。

編集後記

今年度は、医学部看護学科が開設されて以降、長らく念願であった博士後期課程開設が認可された喜ばしい一年となった。人生百年時代に相応しい「健康創造看護学」という新たな看護学教育研究の歩みが、まさにこれから始まっていくことになる。組織を一つの生命体と捉えると、香川大学の看護学科・看護学専攻は、指定規則改正に伴う学部カリキュラム改訂、助産師及び保健師教育の大学院化や博士後期課程設置など、混沌を引きずりながらも発展を志向してやまない青年期にあるといえるのかもしれない。社会の要請に応じた組織改革が、看護界での課題解決や変革を推進する人材輩出へと実を結ぶよう、本誌もその一翼を担うべく歩み続けたい。R.デュボスが「健康な状態とか、病気の状態というものは、環境からの挑戦に適応しようと対処する努力に、生物が成功したか失敗したかの表現である。」と述べたように、常に流動する環境からの挑戦に組織体として適応し、真の意味での改革を成功させなければならない。本誌は今年度、投稿受付のオンライン化と引用文献のAPA方式への準拠などのマイナーチェンジを行った。関係者皆様のご理解とご協力により、発刊まで滞りなく漕ぎ着けられ、“案ずるより生むが易し”であることを実感することとなり、感謝している。コロナ禍にも拘らず貴重な看護研究の成果を投稿くださった方々と、査読の労をお取り頂きました査読者の先生方に、この場をお借りして深謝申し上げます。

最後になりましたが、多忙な業務との折り合いをつけてご尽力頂いた編集委員の先生方に御礼申し上げ、次なる発展に向けた引き続きのご支援をお願いしつつ稿を終えたい。

2022年3月

編集委員長 渡邊久美

香川大学看護学雑誌編集委員会

委員長	渡邊久美		
委員	芳我ちより	辻京子	
	西村亜希子	大西敏美	
	蔵本綾		
